

# ストーリーの構成文化財が追加されました

文化庁の日本遺産認定制度がはじまった平成27年、第1弾として、人吉球磨の歴史と文化を物語るストーリー「相良700年が生んだ保守と進取の文化～日本でもっとも豊かな隠れ里一人吉球磨～」が認定されました。

人吉球磨地域10市町村や民間団体が構成する「人吉球磨日本遺産活用協議会」では、ストーリーの周知や魅力発信に取り組んでいましたが、さらに充実させるため、名称変更（4件）及び追加（16件）等につき、文化庁に申請し、平成29年4月に認められました。

それぞれの魅力が際立つと同時に、相良氏や民衆の信仰と歴史文化的建造物が物語で結ばれました。歴史の追体験をしながら人吉球磨を探訪するルートとして、日本遺産の活用の幅が広がったといえます。

私たちの身近にある寺社仏閣、史跡、仏像、風習、お祭りなどの一つ一つが、先人たちから受け継がれた暮らしの積み重ねであり、今も息づく歴史文化です。

多種多様な文化財群によって織りなされる人吉球磨の日本遺産ストーリー。知ることから、地域の歴史文化を誇り、守り伝え、地域資源として様々な活用することにつながります。

山江村



ながとめさがらしょうかくぐん  
**(42)永留相良氏城郭群**  
相良家第2代相良頼親を祖とする永留相良氏が人吉城に拠点を移すまで、勢力の伸長とともに築きあげた城が山田城・高城である。

人吉市



まつ  
**(43)おくんち祭り**  
相良氏統治時から続く青井阿蘇神社の秋の例大祭。

錦町



ひとよしはんこてきたい  
**(44)人吉藩鼓笛隊**  
幕末に薩摩藩の影響を受け英国式兵制を取り入れた際に組織された鼓笛隊。音色から「ヒーロイロイ」と呼ばれ親しまれている。

錦町



いわんじょうあと  
**(45)岩城跡**  
別名：木上城。江戸時代の『球磨絵図』にも記される中世山城で、在地豪族の平河氏の居城であった。

錦町



あらただいおうじんじゃ  
**(46)荒田大王神社**  
相良氏が滅ぼした在地豪族の平河氏の霊を鎮めるために建立した神社。

錦町



あらたかんのんどう    しゃかによらいぞう  
**(47)荒田観音堂の釈迦如来像**  
相良氏入国前の在地豪族である平河氏が造立したと考えられる平安仏。

錦町



しゃりゅうけんぼう  
**(48)タイ捨流剣法**  
戦国時代、丸目蔵人佐長恵によって創始された剣術。長恵は相良家の剣術指南役として仕え、相良家や藩士によって学ばれていった。

あさぎり町



うえむらさがらしかんれんいせき  
**(49)上村相良氏関連遺跡**  
戦国時代、相良氏の庶流から本家を相続した上村氏の城跡・墓等。

あさぎり町



しらがじんじゃ  
**(50)白髪神社**  
青井阿蘇神社の流れをくむ上村相良氏の氏神社。安産または慈雨の神として、代々の相良氏女や、干ばつの節の雨乞いのために祈願がなされた。

あさぎり町



たにみずやくしどう  
**(51)谷水薬師堂**  
室町時代の創建と伝えられる上村氏の菩提寺を上村氏滅亡後に相良氏が再興した堂。

あさぎり町



おかどめくまのざじんじゃ  
**(52)岡留熊野座神社**  
相良家第3代頼俊が、鎌倉時代後期の蒙古襲来に際し、強敵を退け国家安定を祈り創建したとの由来を持つ神社である。

あさぎり町



ふかだだいおうじんじゃ(ふかだあそじんじゃ)  
**(53)深田大王神社(深田阿蘇神社)**  
相良氏が滅ぼした在地豪族の平河氏のうち、盛高(義高の長男)の霊を鎮めるために建立した神社。現在は、深田阿蘇神社に合祀されている。

湯前町



いちふさやまじんぐうげぐう(さとみやじんじゃ)  
**(54)市房山神宮下宮(里宮神社)**  
市房山にある本宮まで登ることが出来ない人々が詣でる神社。

水上村



いちふさやまじんぐうちゅうぐう(いちのみやじんじゃ)  
**(55)市房山神宮中宮(一の宮神社)**  
大同2年(807)市房山神宮を造営の際に置かれた仮殿の跡地に霧島神社の神を勧請したのが一の宮神社である。お獄さん参りでは休憩場所ともなった。

広域



たけ まい  
**(56)お獄さん参り**  
領主相良氏が、領民に勧めた旧球磨郡内の最高峰である市房山への参詣。

広域



さがらしかんれんこどう  
**(57)相良氏関連古道**  
人々が交流し、有形・無形の文化をもたらした人吉球磨に通じる古道。

名称変更

| 番号 | 変更前           | 変更後                                        | 内容                                                                                                 |
|----|---------------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5  | 東俣阿蘇神社        | → ひがしまた・にしまたあそじんじゃ<br><b>東俣・西俣阿蘇神社</b>     | 五木村<br>江戸時代中期、五木村の民衆との結びつきを重視する藩主が代参を続けた神社。当初の東俣阿蘇神社に加え、本来、一体であった西俣阿蘇神社を追加した。                      |
| 12 | 青井阿蘇神社とおくんち祭り | → あおいあそじんじゃ<br><b>青井阿蘇神社</b>               | 人吉市<br>領主相良氏の保護を受け、江戸時代には人吉藩領内の惣鎮守として藩主・民衆の信仰を集めた神社。理解と活用の幅をより広げるために、無形文化財であるおくんち祭りと分割した。          |
| 28 | 城泉寺阿弥陀堂       | → じょうせんじ・はっしょうじあみだどう<br><b>城泉寺・八勝寺阿弥陀堂</b> | 湯前町<br>在地豪族久米氏が建立し、以後も相良氏や民衆の厚い信仰・保護を受け、中世の景観を今に伝える。構成文化財としての理解を深め、活用の幅を広げるため、歴史的背景を同じくする八勝寺を追加した。 |
| 31 | 市房山神宮         | → いちふさやまじんぐうほんぐう<br><b>市房山神宮本宮</b>         | 水上村<br>郡内最高峰の市房山を信仰の対象とした神社。郡鎮守であり、民衆も「お嶽さん参り」と呼んでしばしば参詣した。活用の幅を広げるため、中宮、下宮を分割した。                  |



追加構成文化財 地図

